

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会	
	課名	生涯学習課	
	係名	生涯学習係	
	記入者		電話(内線)

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称				友好都市交流事業				(3) 事業の 優先度		A								
(4) 総合計画での位置づけ							(6) 事業主体			市											
① 事業の区分		主要事業							(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)										
② 施策コード		46202		(総合計画掲載ページ 115 ページ)						会計区分	一般会計										
基本目標(政策)		4		未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)						財源区分	市単独										
基本施策		6		国や地域を越えた交流の推進(国際交流・地域間交流)						予算科目	款 10		項 5		目 3						
施策				地域間交流の促進						予算書上の	友好都市交流事業費										
施策内容				友好都市福井市との交流事業の推進						事業名称	(予算書 174 ページに掲載)										
(5) 事業期間		開始		平成		14		年		7		月から		(8) 事務分類		自治事務					
		終了				年						月まで(		力年)		根拠法令		社会教育法			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	市内小学6年生	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)	・結城市の子どもたちが結城市の歴史や文化を知り、さらに、福井市との関わりや福井市の歴史や文化等を学び、福井市の子どもたちとの相互交流を図る。 ・様々な体験、交流活動を通し、積極性や協調性を養い、結城を担うリーダーを育成する。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	・友好都市の相互訪問を通し、結城市と福井市の歴史的な関わりを学ぶ。 ・藍染めや機織り、桐工芸に触れるなど、様々な体験をすることで歴史や文化に触れる。 ・共同作業、宿泊をとともにすることにより、子ども同士の交流を深める。 ・事前、事後学習会及び事業実施報告作品展等を行い、事業の効果的な実施と広報を図る。	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)	結城市と福井市の歴史的な繋がりを縁として、平成14年4月に友好都市締結が行われ、その年の7月から小学生相互交流が始まった。また、実施主体が福井市では子ども会ということで、平成22年度から担当課が指導課から子ども会を担当している生涯学習課に所管替えになった。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	活動プログラムは、結城ならではの内容を盛り込み、また、地域住民と多く関わりを持つようにしており、福井市の指導者及び子ども親善大使から好評を得ている。 事業の在り方については、福井市と調整、検討している。		

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映						
実施計画												
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）						
事業内容		26 年度		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		
(1) 事務事業費の コスト	事業費	旅費		130		151						
		需用費		58		64						
		補助金		497		500						
		委託料		0		9						
	合計		685		724							
	財源	国庫支出金 (千円)										
県支出金 (千円)												
地方債 (千円)												
その他特定財源 (千円)												
一般財源 (千円)		685		724								
合計 (千円)		685		724								
補助・起債制度名												

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	実施日数	目標値	日		9	9	9	9	
		実績(見込)値		9	9				
		目標値							
		実績(見込)値							
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	参加児童数	目標値	人		8	8	8	8	
		実績(見込)値		8	8	8	8		
		達成率		100.0 %	100.0 %				
		目標値							
		実績(見込)値							
		達成率	%	%					
5. 事業評価									
(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
受動的ではなく、能動的に動けるプログラムを企画した。 交流先の福井市とも事業内容を調整、検討した。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	子どもたちが、友好都市との交流に取り組むことにより、お互いの文化や歴史への理解を深めるために必要である。					
妥当性	実施主体の妥当性	B	どちらとも言えない	市子連に委託し、事業を行ってもよいが、現状を考えると、行政が実施主体とならざるをえない部分もある。					
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	実施日については、福井市と協議して決定するが、結城市での交流日は夏祭りとなるように設定しており、福井市から好評である。					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	参加者も費用の半額程度を負担している。					
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	市内小学6年生を対象としているが、募集人員が8名と限られてしまっている。					
有効性	成果の向上	A	上がっている	・事業後も手紙の交換等、交流が見られる。 ・事業実施前に比べて、能動的に動けるようになったと報告もある。					
進捗度	事業の進捗	A	順調である	計画通り進んでいる。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
参加者の様子や感想等を見ると、子どもたちにとってこのこの事業が効果的であったと評価できる。 しかし、例年参加希望者が少なく、選考に苦戦している。また、事業が、市民に広く浸透していないので、子ども親善大使として活動してきたことを、多くの市民に伝えられるように、周知方法を検討していかなければならない。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
参加者を集めるためにも、子どもたちやその保護者にとっての子ども親善大使の魅力を作っていくことや、周りから子どもたちに参加を促してもらえよう、広く市民に周知する方法を検討していく。 今後とも、福井市と事業の在り方について、調整・検討していく。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		27年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			両市の児童が、歴史的な繋がりを学び、交流活動をととして、歴史や文化、伝統、風土を理解し、両市の友好の一翼を担うことは重要であるが、市民への広報、周知が不足しているところもあるので、今後は、広報活動にも重点を置きながら、事業の充実を図っていく。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				